

黙示録 21 章 2 節-11 節 スタディーガイド

★ 黙示録 21 章 2 節-4 節

私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しきもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

2 節「新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。」

新しいエルサレムが「花嫁のように」と言われているのは、前のエルサレムが無くなって新しくなったのではなく、結婚式を迎え夫のために整えられた花嫁のように美しく飾られている様子を表しているからです。

花嫁が花婿の所に引っ越すように、新しいエルサレムが天国から地球に引っ越して来ます。

3 節「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。」モーセの幕屋は天の幕屋の模型でしたが、実物が天から降りてきて、地球に永遠の神の都が存在するようになります。

神様の創造の目的は、罪の無い人と神様がいつも共に住まわれることでした。

エペソ人への手紙 5 章 31 節から 32 節に、『「……人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。』

イスラエルと父なる神様、そして、キリストと教会が一つになる時です。

サタンの罪のゆえに、長い年月の間、神様の目的は達成されませんでした。この日のためにイエス様が来られ、十字架に架かってくださったのです。

なぜ神様は、これだけの年月、忍耐をもって待っていらっしやったのでしょうか。

神様は、私たちをロボットのように機械的に従順に従う者には造られず、自由意思をお与えになったからです。

神様を心から愛する愛のゆえに、神様の御心を痛める罪を犯す者は誰もいなくなります。この愛は自由意思によるもので、永遠に変わる事のない愛です。神様の初めからの目的は、愛ゆえに続く永遠の世界です。

第1コリント人への手紙13章13節に、「……いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です」と書かれています。
新天新地では、もう信仰も希望も不必要です。永遠に変わらない愛だけが残ります。

4節「彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。」
死、悲しみ、叫び、苦しみは、罪によって来るものです。もはや海はない、もう罪はない、もはや呪いはないのです。

4節「なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」
以前の罪の世界が再び戻ってくることはありません。

★ 黙示録21章5節-8節

すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。

5節「御座に着いておられる方が言われた。『見よ。わたしは、すべてを新しくする。』」御座から出ている第一のみことばは、すべてが新しくなり、永遠の世界が到来するという約束です。

5節「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」
苦しみも涙も罪も全くなき、愛だけが残っている世界は疑う余地のない真実です。

6節「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。」
黙示録の始まりで、事が成就していない時に、同じ言葉を語られました。

黙示録1章8節で「神である主、今いまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。『わたしはアルファであり、オメガである。』」
メシア王国（千年王国）が実現して、そして、終わりました。
ギリシャ語のアルファベット、最初と最後、そしてその中間のすべての字が含まれている、すべてであられる、永遠に存在なさるお方です。

6節「わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。」
御座から出ている第二のみことばは、永遠の神の都にはいのちの水の泉があり、存分に飲むことができるという約束です。いのちの水はイエス・キリストです。

7節「勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」

御座から出ている第三のみことばは、黙示録 2 章と 3 章で各教会に語られたことと同じみことばです。信じる者のみ相続することができます。

8 節「しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」

御座から出ている第四のみことばは、不信仰な者たちが復活して白い御座の審判を受け、第二の死によって永遠に神様から離れてしまうことを語っています。

★ 黙示録 21 章 9 節-11 節

また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。

9 節「御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。『ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。』」

御使いがヨハネに、小羊イエス様の花嫁を見せています。

10 節「御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。」

天のエルサレムが地上に降りて来る幻を見えています。

建物がイエス・キリストの花嫁ではなく、その中にいる者たちが花嫁です。ウエディングドレスに包まれた花嫁を見ているのと同じです。

へブル人への手紙 12 章 22 節で、「……あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。」

天のエルサレムと地のエルサレムが一つになる時です。

新しいエルサレムには、三位一体の神様と無数の天の生き物たち、そして神様を愛する人間たちが共に過ごします。

11 節「都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。」

天から降りて来るエルサレムは、シャカイナグローリーで満ちています。

碧玉は透き通っていませんが、赤、緑、そして黄色などがあります。

シャカイナグローリーは、透き通った碧玉のようですから、これら全部の色が動いているような感じかもしれません。